

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部診療放射線学科

名前 真田 哲也

作成日 2024年2月26日

【責任】

教育活動として、学部生教育の専門基礎教育科目（「放射化学Ⅰ」、「放射化学Ⅱ」、「医用工学実験」、「放射線計測学実験」、「医用物理学実験」、「放射線物理学」、「放射線物理学演習」）および専門教育科目（「総合演習Ⅰ」、「卒業研究」、「臨床実習Ⅰ・Ⅱ」、）を担当し、ゼミでは就職や学習・生活指導等についても指導している。また、修士課程では、専修科目（「放射線科学特論」、「放射線安全管理学特論」、「放射線技術学演習」）及び研究科目（「放射線技術学特別研究」）、博士課程では、専修科目（「保健医療学特殊研究Ⅴ」）及び研究科目（「保健医療学特別研究」）を担当している。

【理念】

学生には「なりたい自分」すなわち将来、診療放射線技師として医療職の一員となり社会に貢献することを実現するために放射線技術学の専門的な知識や技術を習得して活用できる能力を有し、社会の一員として活躍できる人材として生涯成長できる人となって欲しい。また、自ら考え自分自身で生きる道を切り開くことができる人に成長して欲しい。特に大学院生については、問題を発見しその解決方法を見出し、理論的に解決できる高度な専門知識を持った人材として成長して欲しい。

現代社会においては状況が目まぐるしく変化し、ネット環境の構築により情報の共有や発信も容易になり、それによる価値観も多様化して多くの情報が氾濫している。また、医療現場では様々な医療機器が日々進歩しており、医療技術者は常に新しい技術や知識の習得が求められている。このような中で、信頼できる情報を選択して、客観的に物事を捉え評価することはとても重要となっている。また、常に自分自身を見つめ、自らを俯瞰的に評価することはこれまで以上に大切になっている。

そのために私は、専門領域の教育を通して学ぶことの大切さや喜び、新しい気付きや発見の際の感動や興奮を伝え、新たなことへのチャレンジ、未知のものを探る探求心と好奇心を養い育て最終的には自立した一人の人間として社会で活躍できる人材を輩出したい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するため、「知識の定着と到達度の把握」、「より良い授業の構築とフォローアップの充実」、「インタラクティブな授業の推進」という方針で教育を実施する。以下に具体的な方法について提示する。

「知識の定着と到達度の把握」

知識の定着には可能な限り直感的に理解できるような資料や教材を作成し、授業における説明においても専門用語だけではなく、平易な言葉や身近な現象等を例に挙げて理解しやすいように工夫する。到達度の把握には授業ごとに小テストを実施して状況を分析する。また、定期試験や模擬試験の評価により合格点に達しない場合は補習等で解説を行う。

「より良い授業の構築とフォローアップの充実」

学生からの質問やアンケート調査から、授業の内容についてレビューしそれを授業に反映させる。資料は常に見直しを実施して、理解しやすい表現方法に修正していく。授業時間内だけではなく、メールや HUS-UNIPA、オフィスアワー等を積極的に利用して学生からの質問等を受ける機会を増やし、可能な限り迅速に丁寧に対応する。

「インタラクティブな授業の推進」

授業においては一方的な説明とならないように、コミュニケーションの時間を設け質問等を積極的に投げかけ学生から応答をしてもらうようにする。また、ゼミ活動では学生相互のディスカッションを基軸として進め、学生自らが積極的に参加して発言するような環境作りを整える。これにより自主的な考えのもと議論を進めて理解を深める事が可能と考える。さらに、TA または SA を活用し、学生同士のコミュニケーションを通して学びの質と能動的な学修姿勢の醸成を図る。

【成果・評価】

こうした教育活動を実践してきたことで、多くの担当する授業で 90%以上の学生が授業から新たな興味や問題意識を持つことができた、質問等を受け付けてくれて丁寧な説明があり理解の助けになったと回答している。

また、ゼミ生（学部生と大学院生）においては卒業研究や大学院の研究等で外部発表（国際学会、研究会）を実施した。

【目標】

短期目標

- 学生の事前・事後学習時間の拡充

長期目標

- 医療技術者のみならず、放射線に関連した研究所、企業、メーカー等への人材輩出のための教育システムの構築
- 医療現場において高度な専門性と感性豊かな人間性を兼ね備えた医療技術者育成のための教育法の追求とその遂行